

性別や兄弟などの差別をなくすために

河西小学校四年 新宅 七海

あなたは男らしさ、女らしさと聞いて何を思いうかべますか。男子は運動好きで、女子は友達と話すのが好き。大人であれば、男性は働いて女性は家事や子育て―他にもいろいろなことを思いうかべる人がいると思います。

私は三年生のころ、習字セットを買ってもらいました。それには赤色と青色がありました。みんな男女問わず、好きな色を選んでいました。しかし、私のある友達は、お母さんに「女らしい色の赤にしないで」と言われて、赤にしたと言っていました。その友達は赤がいやだったのか分かりませんが、女の子だからという理由で勝手に決められたことがかわいそうだと思いました。

また、こんな話も聞いたことがあります。ある仕事のしゅうしょく試験で、ごうかくでできるレベルの知力があるのに女性だからという理由で不ごうかくになった人がいると聞きました。女性はなぜだめかというと、女性は、将来けっこうにしんして、子どもを育てるため、仕事をやめなければなくなると考えられているからです。そこで私は思いました。みんな同じ人間なのに、性別で差別されて、勝手に決められて、自由をうばわれていく。このままで本当によいのだろうか。と―

そんなある日、私は気づきました。性別の差別だけでなく、兄弟の差別、大人と子どもの差別など、差別の種類はたくさんあり、私

たちの生活にあたりまえのように身近にあるのだと。それなら、私たちの身近にある差別を少しでもなくしていけば、大きな差別をなくすることもできるかもしれない。そう思いました。しかし、こんなとき大人は子どもにこう言うと思います。「子どもに何かができるわけがない」「子どもが始めたところで何かが変わるわけでもない」と。しかしこれは大人と子どもの差別であり、私たちは差別をなくしたいのです。つまり、子どもが何かを始めることで、差別をなくす第一歩につながるのです。しかし、これ続けるのはむずかしいと思います。自分が気づかずに差別をしてしまうことだってあるかもしれません。こんなときは、友達に協力してもらうことがいいと私は思います。たとえば、女子一人で男子たちの中にまじって遊ぶのはなかなかいきづらいです。でも同じような差別の考えをもつ人がもう一人いると思うと少しいきやすくなると思います。そしてもう一ついいことがあります。自分の友達も差別のことに関心をもってくれるということです。そうしたらその友達も自分がしたように他の人に協力してもらうという行動をとってくれるかもしれないからです。

私は、差別をなくしたいと考えます。これを読んだあなたも、差別について考えてみてください。そうしたら、みんなが平等なくらしをおくれるのではないでしょうか。